

第2回東日本大震災に関する活動助成 活動報告書

団体名	東日本大震災被災者さんへの暮らしサポート隊
活動テーマ	関西に来られた県外避難者さんの癒しの場「みちのく だんわ室」の開催



活動目的／ 東日本大震災の被害と、それによる原発事故の放射能被曝を避けて、神戸市をはじめ関西へ避難して来られた方々を、月に一回、招待して、grief care のための「みちのくだんわ室」を開催。快適な癒しの場とお茶菓子の提供し、避難者同士の自由な歓談によって、少しずつ元気回復していただく。また、そこから避難者同士のネットワークづくりにもつながることを目的とするが、暮らしサポート隊は原則として黒子に徹する。なお、幼児を連れた若い家族の参加者に対しては、親同士がゆっくりにおしゃべりをしたり寛げるように、多数のサポーターが参加して子どもたちを安全に遊ばせる。

活動実施状況／ 月ごとの「みちのくだんわ室」の開催

4月—しあわせの村でのバーベキュー、5月—明石公園、6月—1周年記念パーティ・コープこうべ生活文化センター、7月—岡本の「シェ・ドンク」レストランのパーティールーム、9月—舞子海上プロムナード・展望ラウンジで開催した。毎回の参加者数は、20～60人に及ぶ

成果／ みちのくだんわ室の回数を重ねるごとに、「100人大家族の協同の居間」のような雰囲気が出され、参加者がリラックスし、家族のような親しみを感じてこられた。馴れない避難先の緊張した非日常の日々から、ひととき日常に戻る時間を過ごされているのが伝わってくる。毎月参加の人からは日常生活の中の行事になっているとの声もある。2011年6月～2012年9月までのみちのくだんわ室の参加者登録数64家族-159人（延べ参加者数は198家族-427人）になる。

また、若い母親たちは携帯電話のアドレス交換をして、ネットワークをつくり、連絡しあっておられる。年輩者も電話でおしゃべりなどをされているようで、異郷の地で心の通う知人ができたことは心強く感じられていると察する。また、避難者の自主活動も芽生えてきたので、暮らしサポート隊は自主活動の後方支援も始めた。